

除排雪民具に関する所蔵分布調査 ～北海道におけるジョンバの適応性～ A study of Distribution about Snow-removal Tools

小西信義 ((一社) 北海道開発技術センター)

佐々木亨 (北海道大学大学院文学研究科)

Nobuyoshi Konishi, Sasaki Toru

1. 本研究の目的～コスキとジョンバとの地域的差異～

北海道や新潟などの民俗誌によると細かな名称の違いはあるが、国内の豪雪地域では主にコスキ並びにジョンバと呼ばれる除雪具が使用されていた。

江戸時代後期の越後の随筆家である鈴木牧之¹⁾は、コスキは一本木から作製されるヘラ状の除雪具で、「(雪を)掘るには木にて作りたる鋤を用ふ、里言にこすきという、則木鋤也」(鈴木 1837 (1991), 26-27)と記述し、「雪中第一の用具」と形容した。一方、北海道開拓記念館(現:北海道博物館)の氏家²⁾は、ジョンバを「大別すると雪をはねる部分の左右と後方に帆板を取付けたへらと柄によって構成され、より遠くに投げられるものと、帆板を付けないへらと柄によって構成されたもの、一本の木から製作したもの¹⁾と三つのタイプに分類される。また、へらの部分を竹編みとして先端部を鉄板で補強したものは主に新雪の除雪などに使用された」(氏家 1989, 63)と分類した。越後魚沼の除雪具を研究した民俗学者の滝沢³⁾は、「雪との戦いにおける唯一の武器は、木製のコスキである」(滝沢 1985, 194)と形容し、越後におけるコスキの唯一性を主張した。しかし、前掲の氏家が記述するように、北海道ではコスキと平行し、ジョンバなるものも使用されていたという。

つまり、コスキは豪雪地域では普遍的に使われているが、ジョンバの使用地域には限定性がある。そこで、本研究では除雪具の限定性と適応性を検討することで、微細な自然環境の違いに人びとが細やかに対応してきた姿を描き出すことを目的とする。

2. ジョンバの変遷とその適応性

氏家²⁾は、ジョンバの変遷とその適応性を論じている。明治末期から大正期頃、コスキが道南地方あるいは明治期の内陸部において使用されてきた。昭和40年代までには、帆板などを付けたジョンバや竹製ジョンバもコスキと併せ使用された。その理由として、「湿り気が少なく、寒暖の差が激しく凍結状の軽い雪質のため」(氏家 1989, 64)という。昭和40年代から現在において、木製や竹製のジョンバからプラスチック製の雪かき(ジョンバ)に取って代わられたと氏は主張する。

さらに、ジョンバは、山形でも使用されていたようである。山形では、「網こすき」と呼ばれ⁴⁾、その名称からコスキから派生した道具だと推測できる。しかし、新潟の文献では、ジョンバが使用されたという記述は見当たらなかった。以上の文献精読から、ジョンバ使用圏と非使用圏が山形で分かれるという推測が立つ。

¹⁾ コスキと同形態の除雪具である。

3. 除雪具に関する質問紙調査

そこで、前章で記した民俗誌における除雪具の地域的差異の妥当性を、雪氷データを用いて検証したい。ただし、文献資料だけでは、資料数が乏しく、雪氷データとの照合に耐えられないと判断したため、豪雪地帯にある博物館や郷土資料館へ除排雪民具の所蔵の有無に関する質問紙調査を行った。

対象館の選定方法としては、①対象館を豪雪地帯及び特別豪雪地帯として指定されている自治体を絞る、②『全国博物館総覧』から豪雪地帯の指定を受けている自治体にある館を選択、③館の種別や収蔵品・展示内容を鑑み、調査対象施設とするか最終的に判断する、④ただし、判断に困るときは、調査対象館とした。その結果、286館が調査対象館として選定された。

質問紙の項目は、①除排雪具に係る資料の所蔵有無²、②各除排雪具に係る資料の所蔵の有無と資料名、③除排雪具に係る資料に係る資料調査記録（目録・図録・学術論文・報告書等）の有無と記録名、④その他お気づきになったこと、から成る。

4. 調査結果～除雪具の地域的差異とその適応性～

質問紙調査にご協力いただいた回答館は、全国25道県で182館、回答率は63.6%だった。館の種別は、「郷土」（45.0%）、「歴史」（42.9%）が圧倒的に多かった。道府県立・市町村立の公立館（72.8%）を中心に回答があった。図1は、除雪具各18種（資料番号①～⑱）の形状とその特徴、所蔵館の分布を示す。結果、除雪具ごとの所蔵分布の全体像が把握できた。

次に、除雪具における地域的差異が雪氷データで支持できるのかを検証してみた。具体的には、質問紙調査で得られた除雪具18種を、ジョンバ系除雪具とコスキ系除雪具に分類し、雪質分布図⁵⁾に重ねてみることで、除雪具の種類の違いと雪質の違いとの間に相関があるのかを探索的に検証する。

結果、コスキ系除雪具（資料番号①～⑭、⑰）は、乾湿問わず満遍なく分布（湿雪圏56.3%、乾雪圏42.9%）し、ジョンバ系除雪具（資料番号⑮、⑯、⑱）の84.4%が乾雪圏の館に所蔵されていることがわかった（図2）。つまり、コスキ系除雪具は、乾湿に関わらず使用され、ジョンバ系除雪具は、乾雪圏を中心に使用されていたらしく、氏家²⁾の言った「湿り気が少なく、寒暖の差が激しく凍結状の軽い雪質のため」といったジョンバ系除雪具の乾雪圏における適応性を支持できた。また、文献資料で得られたジョンバ使用圏と非使用圏が山形を境界としていることも雪氷データから支持できた。

5. 結論～除雪具が語る、自然-人間の認識-人間の活動の関係～

結論として、質問紙調査で得られた除雪具の所蔵分布地図と積雪の雪質分布図とを統合することで、次の結果が得られた。コスキは全国的に分布しているのに対し、ジョンバは山形以北の乾雪地帯に多く見られた。つまり、コスキは豪雪地帯では一般的な除雪具であるのに対し、ジョンバは雪質に依存する除雪具であり、積雪の乾湿による除雪具の形態的差異が示唆される。本研究を通して、たった1.3℃の気温の違いによる雪質の微細な違いに対し、人間は生態学的な知識という自然への認識を発動させ、その認識が除雪具の使い分けに現れたと言えるのかもしれない。

²質問紙には、文献資料で得られた除雪具を画像付きで18種類を掲載している（図1）。

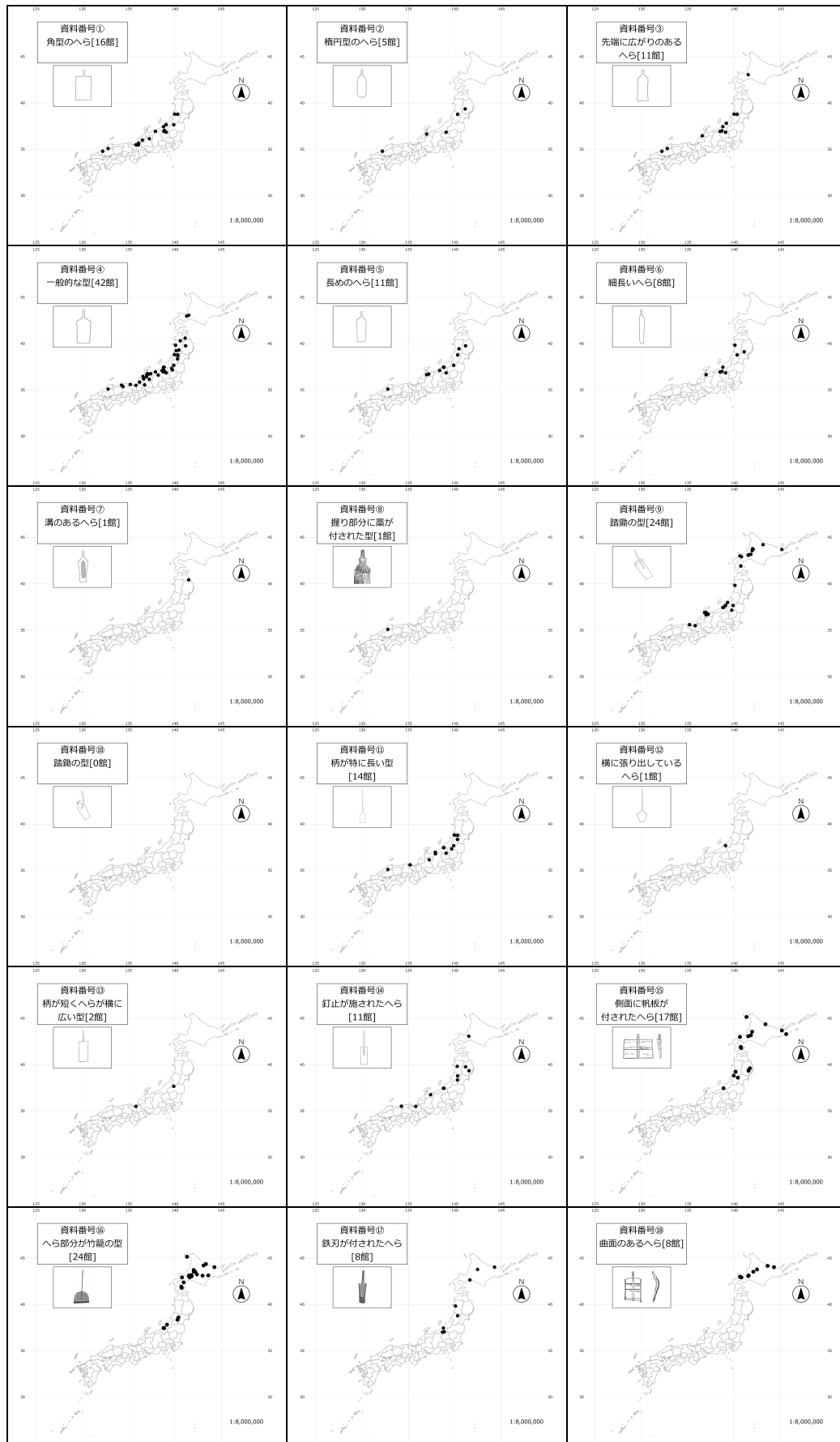


図1 除雪具の所蔵分布図

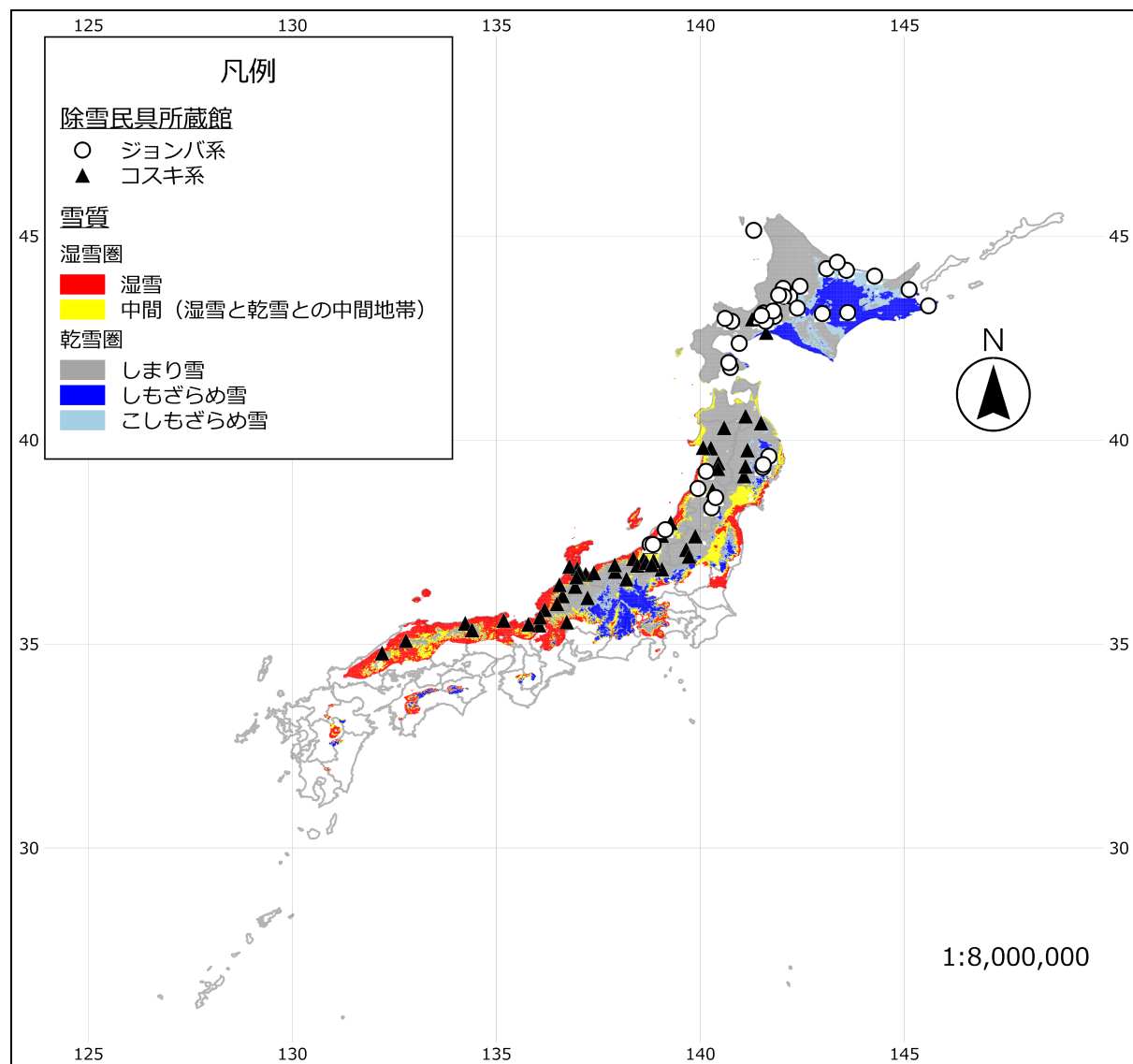


図2 除雪具の所蔵分布図×積雪の雪質分布図

謝辞

質問紙調査にご協力くださった各館，雪質分布図を提供してくださった石坂雅昭氏（防災科研），データ処理をしてくださった門田昌大氏（同講座修士課程）に厚く感謝申し上げます。なお，本研究は，平成26年度北海道大学大学院文学研究科リサーチ・アシスタント（RA）の成果の一部である

【参考・引用文献】

- 1) 鈴木牧之，1837（1991）：北越雪譜（岡田武松校訂）。
- 2) 氏家等，1989:除雪具（雪かき）の変遷と雪押しの発生と発達過程．北海道開拓記念館研究年報，**17**，63-75。
- 3) 滝沢秀一，1985:越後魚沼地方の除雪とコスキ．日本民俗文化体系第13巻技術と民俗（上巻）海と山の生活技術誌，194-196。
- 4) 著者不明，1899:民俗画報。
- 5) 石坂雅昭，2008:新メッシュ気候値に基づく雪質分布地図の作成と近年の日本の積雪地域の気候変化の解明，科学研究費報告書（基盤研究（C））。